

【1. 概要】

- ・イチゴ栽培中に発生する病害虫に対し、既存のIPM体系を改良・実証
- ・鹿行地区のIPM導入面積が拡大(H24年度比170%)
- ・生産者や普及指導員等を対象とした研修会において、事業成果を報告

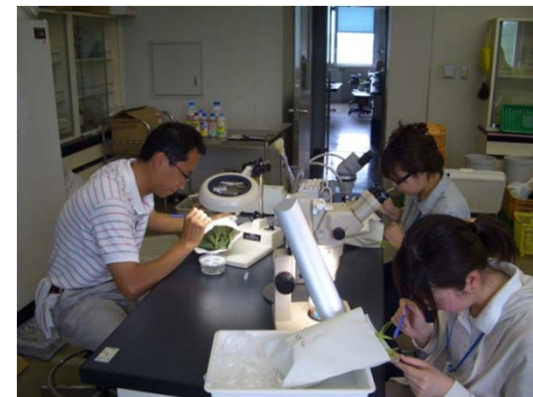


図 技術体系化チームによるハダニ類の薬剤感受性検定の様子

表 主要な殺ダニ剤の薬剤感受性検定結果(一例)

処理区	鉾田A農家		
	1日後	3日後	
	補正死虫率(%)	補正死虫率(%)	産卵数合計(個)
A水和剤	33	(8)	8
Bフロアブル	94	100	4
Cフロアブル	55	23	66
Dフロアブル	25	(19)	39
E乳剤	46	36	52
Fフロアブル	65	56	16
水(コントロール)	0	0	45

【問い合わせ先】

茨城県農業総合センター病害虫担当専門技術指導員
電話：0299-45-8322

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

県内では天敵を活用した病害虫防除が拡大しつつあるが、一部農家においては導入失敗の事例がある。そこで、以下の課題解決を図り、「ハダニ類のIPMマニュアル」(中央農研)をもとに本県版のIPM体系を構築し、普及を目指した。

- ・巡回・聞き取り調査により天敵防除の成功・失敗要因を解明。
- ・ハダニ類、アザミウマ類を採集し、薬剤の感受性を調査。
- ・主要病害虫に対するイチゴIPM導入マニュアル案を作成、実証。

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

農業革新支援専門員を中心に、IPM技術の研究実績を有する園芸研究所研究員及び現地でのIPM技術の支援や調査を行う普及指導員で技術体系化チームを設置し、普及上の課題解決に向け、連携を図りながら推進した。

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・ハダニ類及びアザミウマ類の薬剤感受性を明らかにし、IPM体系に活用した
- ・天敵(カブリダニ類)定着の成否には天敵放飼前のハダニ密度が重要であった
- ・IPM導入面積 H24:24ha→H26:41ha (本地区のイチゴ栽培面積約70ha)
- ・天敵(カブリダニ類)定着率 H24:約8割→H26:約9割
- (残された課題)低温時期でもアザミウマ類を捕食できる天敵昆虫の検討